



1 3 空欄の前後の言葉を手がかりにして考える。それぞれ空欄の後に「のもいや」「と思われないう」とある。本文中にこれらの表現と同じ、または、似たような表現がないかを探す。

2 1 直後に「坂戸君」のことにについて書かれている。

2 空欄の前後の言葉を手がかりにして考える。空欄の後に「を必要としないことしかせず」とある。坂戸君は何を必要としないことしかしないのかを考える。

3 空欄の前後の言葉を手がかりにして考える。I には、坂戸君の態度が、II には、その態度に「私」はどうしている（思っている）かが入る。

3 1 ここでの「燃えた」は「ある感情に動かされて、気持ちが高ぶる」という意味で用いられている。

2 1 線部②の直前から「私」の状況を読み取る。

3 1 線部③の直前から「美和子」の様子を読み取る。「どのような態度」と問われているので、文末は「態度」とする。



チャレンジ4

～国語の知識(書写・語彙・文法)～

2 二字熟語の成り立ちには、次のような種類がある。

似た意味の漢字が組み合わさったもの。	(例) 「創造」 「獲得」 「増加」
意味が対になる漢字を組み合わせたもの。	(例) 「上下」 「寒暖」 「損得」
下の漢字が上の漢字の目的や対象を表すもの。	(例) 「読書」 「帰国」 「登山」
上の漢字が下の漢字を修飾するもの。	(例) 「国宝」 「海底」 「再会」
上の漢字が主語、下の漢字が述語になっているもの。	(例) 「頭痛」 「地震」 「骨折」

3 文節どうしとの関係には、次のような種類がある。

主述の関係	文全体の中で、主語を表す文節と述語を表す文節の関係。	(例) 私 は 中学二年生 だ
修飾・被修飾の関係	他の文節の内容を詳しく説明する文節と修飾される文節の関係。	(例) 大きな 犬 を 飼う
並立の関係	文節どうしが対等に並ぶ関係。	(例) 小さくて かわいい 花だ 。
補助の関係	本来の意味が薄れ、前の文節に補助的な意味を添えるだけになった文節とその直前の文節との関係。	(例) あの 人 を 知って いる 。